

祢宜弥遺跡Ⅱ

（平成13年度 袋井市祢宜弥土地区画）
（整理事業に伴う発掘調査報告書）

2002.3

静岡県袋井市教育委員会
袋井市祢宜弥土地区画整理組合

祢宜弥遺跡Ⅱ

(平成13年度 袋井市祢宜弥土地区画)
(整理事業に伴う発掘調査報告書)

2002.3

静岡県袋井市教育委員会
袋井市祢宜弥土地区画整理組合

例 言

1. 本報告書は、平成13(2001)年 6 月11日～平成14（2002）年 3 月25日の期間に、袋井市愛野字馬込 588番地他34筆で実施された祢宜弥（ねぎや）遺跡第 2 次調査の発掘調査報告書である。
2. 本発掘調査は袋井市祢宜弥土地区画整理事業に伴う開発のうち、道路の建設予定地部分の発掘調査である。なお、本工事計画のうち、道路歩道部分・安全地帯・緑地帯については発掘調査は実施されていない。
3. 発掘調査は静岡県教育委員会文化課の指導を受けて実施した。
4. 今回の発掘調査・報告書執筆は永井義博（袋井市教育委員会）が担当した。
5. 祢宜弥遺跡における袋井市教育委員会受託の試掘・発掘調査の履歴は次のとおりである。

調査の内容	調査年度	試掘調査・発掘調査の原因	調査担当者
試掘調査	平成 6 年度 (1994)	小笠山運動公園整備に係わる周辺河川改修事業 (委託先・静岡県袋井土木事務所)	吉岡伸夫 (袋井市教委)
試掘調査	平成 9 年度 (1997)	袋井市祢宜弥土地区画整理事業に伴う試掘調査 (委託先・袋井市役所建設経済部区画整理課)	永井義博 (袋井市教委)
第Ⅰ次調査	平成10年度 (1998)	袋井市祢宜弥土地区画整理事業に伴う発掘調査 (委託先・袋井市祢宜弥土地区画整理組合)	永井義博 (袋井市教委)
第Ⅱ次調査	平成13年度 (2001)	袋井市祢宜弥土地区画整理事業に伴う発掘調査 (委託先・袋井市祢宜弥土地区画整理組合)	永井義博 (袋井市教委)

6. 祢宜弥遺跡の袋井市教育委員会遺跡略号は「TNE」である。
7. 現地の発掘調査にあたっては祢宜弥土地区画整理組合の皆さんにはたいへんお世話になりました。ここに記して感謝いたします。
8. また、区画整理課の皆さんには区画整理事業と埋蔵文化財調査の円滑な調整について、企画段階から発掘調査の終了まで多大なご理解と協力を得ました。たいへんありがとうございました。
9. 袋井市教育委員会側の平成13年度の発掘調査体制は次のとおりである。（敬称略）

教 育 長 戸 塚 雅 之	教 育 次 長 藤 田 代 行	生涯学習課長 鈴 木 健 治
課 長 補 佐 高 木 雅 之	主 査 永 井 義 博	主任学芸員 松 井 一 明
主任学芸員 水 野 雅 彦	学 芸 員 白 澤 崇	経 理 事 務 鈴 木 寿 美 子

(祢宜弥遺跡発掘参加者)

浅野しづ江	兼 岡 公 子	笹川みどり	三浦とく江	萩田権治	大庭京子
太田昌宏	兼 岡 進	鈴木義彦	三浦久雄	山崎莊一	高木啓子
大庭嘉平	窪野くに子	戸倉百合江	水谷博次	山本隆二	山下悦子

10. 本発掘調査は、静岡県教育委員会教育長より袋井市祢宜弥土地区画整理組合理事長にあてた「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）」（教文第 3 - 48号・平成10年 7 月 9 日付け）の指示によるものである。
11. 平成13年度 祢宜弥遺跡発掘調査の資料は袋井市教育委員会が保管している。

目 次

第1章	調査に至る経過	1
第2章	調査の経過	1
第3章	調査の方法	2
第4章	地理的・歴史的環境	2
第5章	遺 構	3
第6章	遺 物	3
第7章	まとめにかえて	4
	報告書抄録	5

挿 図 目 次

第1図	祢宜弥遺跡位置図 (1/50,000)
第2図	祢宜弥遺跡発掘調査地点 (1/2,500)
第3図	祢宜弥遺跡 (第1次・第2次) 発掘調査全体図
第4図	祢宜弥遺跡 (第2次調査) 南東区実測図
第5図	祢宜弥遺跡 (第2次調査) 南南区実測図
第6図	祢宜弥遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図

写真図版目次

図版 1

- (1) 南東区完了写真 (ラジコンヘリより)
- (2) 南南区完了写真 (ラジコンヘリより)

図版 2

- (1) 南南区調査状況 (北より)
- (2) 南東区調査状況 (西より)

図版 3

- (1) 南南区調査状況 (北より)
- (2) 南東区井戸跡群完了写真

図版 4

- (1) 近世井戸跡 0 0 4 調査状況
- (2) 近世井戸跡 0 0 4 完了写真

図版 5

- (1) 土壙 0 1 6 (弥生時代) 遺物出土状況
- (2) 土壙 0 1 6 (弥生時代) 完了写真

図版 6

- (1) 溝跡 0 0 1, 0 0 2, 0 0 5 完了写真
- (2) 柱穴跡 0 1 1, 0 1 2 完了写真

図版 7

- (1) 溝跡 0 0 9、柱穴跡 0 0 8 ほか完了写真
- (2) 近世井戸跡 0 0 3 完了写真

図版 8

- (1) 集石跡 0 2 3 完了写真
- (2) 溝跡 0 2 5, 0 2 6 完了写真

図版 9

- (1) 南東区完了写真 (西より)
- (2) 南南区完了写真 (北より)

図版10

- (1) 写真撮影のための遺構清掃作業
- (2) ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影・測量

図版11 柵宜弥遺跡 (第1次調査) 出土遺物①

図版12 柵宜弥遺跡 (第1次調査) 出土遺物②

第1章 調査に至る経過

袋井市愛野（祢宜弥）地内に所在する周知の埋蔵文化財・祢宜弥遺跡は「袋井市祢宜弥土地区画整理事業」に伴って、平成10年度に第1次調査が実施され、本年度（平成13年度）に第2次調査が行われた。発掘調査に至る経緯は次のとおりである。

祢宜弥遺跡が周知の埋蔵文化財として登録されたのは最近のことである。平成6年に静岡県袋井土木事務所の依頼で、吉岡伸夫（当時、袋井市教育委員会）により実施された小笠山総合運動公園整備に係わる埋蔵文化財の試掘調査が行われた。この時、2カ所の遺跡がヒットし、そのうち1カ所が祢宜弥公会堂の東側で確認された祢宜弥遺跡であり、もう1カ所が西野原遺跡であった。この時は試掘調査の精度の問題もあり、遺跡範囲は確定されなかったが、平成8年になってから、袋井市役所建設経済部区画整理課の依頼による試掘調査が行われた。これは愛野新駅（当時）建設にともなう周辺の区画整理事業に関連して遺跡の試掘調査で、この結果、祢宜弥遺跡の範囲が確認された。その他、詳細は第1次調査報告書に詳しいのでそちらを参照願いたい。

第2章 調査の経過

平成13年

- 6月15日 発掘調査委託契約の締結。
- 7月14日 現場事務所プレハブ建て上げ。水道・電気引き込み作業。
- 7月18日～ 重機による表土の掘削・除去作業。
- 7月24日～ 発掘調査開始。弥生土器片が確認された。
- 8月1日～ 遺物包含層の掘り下げ。中世・近世の遺物も混在している。低湿地で河川の氾濫を何度も経験している土地柄らしい。溝跡、柱穴跡、井戸跡が検出されている。
- 8月13日～ お盆休み
- 8月16日～ 確認された遺構を発掘する。弥生時代、古墳時代の溝跡、柱穴跡、土壇が確認される。土器等の遺物も出土している。
- 8月21日・22日 台風11号襲来。大雨・大風で現場は大きな被害を受ける。遺跡周囲は、区画整理事業で埋め立てが終了しているため、雨水はすべて遺跡の調査区に流れ込んでしまう。復旧には時間がかかりそうである。
- 8月23日～ 退部宇被害の復旧作業を行う。遺跡内各所で土砂崩れがある。遺跡の完掘をめざすとともに、完了写真撮影のための清掃作業も行う。
- 8月28日 (株)フジヤマに委託してラジコンヘリコプターによる空中写真測量と完了写真の撮影を行う。午後、撮影終了後に直ちに撤収作業を行う。
- 9月1日～ 遺跡出土品資料整理と発掘調査報告書の作成を行う。

平成14年

- 3月25日 発掘調査委託契約完了。

第3章 調査の方法

今回の第2次調査は平成10年の調査に続いて、約402㎡（333㎡と69㎡の2区画）が対象面積である。調査地の現況は宅地、道路、水田であったが、現在は周囲の埋め立てが進み草の生い茂る窪地でマムシの生息する湿地と化していた。

さて、試掘調査や平成10年度の調査により遺物包含層の分布と遺構深度等が確認されていたので各地区の発掘は水田部分を参考に重機で表土より30cmまで一気に掘削した。そして、重機での掘削後は発掘作業員の手により遺物包含層を厚さ3cmで順次掘り下げていった。

祢宜弥遺跡の発掘調査区は、道路部分のみであるためどうしても細長い区画となり、発掘調査により遺跡の性格まで把握するのは困難であった。これは、祢宜弥地区が低湿地に位置するため、区画整理事業ではすべてが埋め立て地となり、工事により遺構・遺物を破壊する恐れが少ないため、なるべく遺跡を保存するために「遺跡の破壊される恐れのある部分」と「道路部分」のみが発掘対象となった。今回の発掘調査は地盤の弱い低地ではあったが、区画整理課と組合の配慮により周辺に広い作業ヤードが確保されていたため安全に作業ができた。

遺跡の測量はラジコンヘリコプターによる空中写真測量を使用した。40分の1、100分の1の遺構実測図を作成するとともに鳥瞰写真の撮影も行った。その他調査方法の基本は第1次調査を踏襲した。写真撮影はラジコンヘリコプターからはブローニサイズ6×6を使用し、遺跡内のスナップ写真は35mm判にニコンF70を使用した。

第4章 地理的・歴史的環境

原始・古代の愛野地区とその周辺については第1次調査報告書が詳しいので、そちらを参照していただき、ここではそれ以降の愛野地区の歴史と民俗について地元の2冊の記録書よりその状況に若干触れてみたい。

今回の発掘調査中、発掘参加者の鈴木義彦氏（上石野）より、鈴木家に伝わる昔の記録書『石野之葉』を見せていただいた。これは、昭和8年に鈴木松太郎氏によって記録された愛野地区の近世・近代の歴史と民間伝承についてまとめたものである。石野は昔は石野村、さらには石野郷とも呼ばれ鎌倉時代の文献に最初に姿を見せるようになった。石野乃葉の一説には「石野村ハ今ヨリ凡七百八年之前ニ出来タル村ニテ神社三ヶ所、寺四ヶ所アリタルモ、明治八年ノ改正ニテ神社仏閣ハ一村ニ一社一ヶ寺ヨリホカニ建置ク事デキズト云事ニテ正覚寺、慈徳庵、菩提寺ノ三ヶ寺ツブシテ明香寺ノ一ヶ寺トナッタ。熊野権現神社、八幡宮、山之神神社之三社アリタルモ明治八年之改正ニテハ八幡宮一社氏神トシテ祭り置ケリ。……」とある。つまり本書の冒頭からも解るとおり、当時の石野村は袋井市内では古くからの郷であり、大きな集落であったことが伺える。この「石野乃葉」については別の機会に内容を詳しく紹介することとしたいが、この中でも大きな災害がたびたび石野村を襲ったことが記されている。小笠山の地質が砂礫層を基盤とするため、少し雨が多く降ると土砂崩れや洪水がおこり土石流となって集落を押し流すことがあった。

もう1冊、愛野地区関連の書籍として『五軒平の歴史』（勸農報徳社刊行）がある。これは、袋井市愛野の山田川の小高い丘でJR東海道線と新幹線の南側に位置する場所についての記録書である。これによると、現在は大塚製薬の工場が建設されているこの地は、かつては五軒平（ごけんべら）

と呼ばれる茶園が広がっていた。そして昭和16年、25人の地元民により五軒平は開墾されたがこの開墾の際、古墳が掘り起こされ五鈴鏡1点、壺の一種、直刀、管玉10個が出土している。現在、これらは「五軒平古墳出土五鈴鏡」として管玉、ガラス玉等と共に袋井市指定文化財となっている。なお、「五軒平」の名の由来は、昔ここに五軒の武家屋敷があったためと伝えられている。後に、この地は工場建設に伴う発掘調査が実施されて、たいへん珍しい小銅鐸が発掘された愛野向山遺跡の名で全国に知られるようになった場所である。

第5章 遺 構

今回の発掘地は平成10年の第1次調査では民家の移転が終了していなかった場所で、過去の試掘調査で推定された遺跡範囲でも、遺跡中心部からは大きく東に外れた縁辺部とも言える場所である。祢宜弥地区を表した江戸時代の絵図や明治22年の陸軍の地図等でも、今回調査区より東は逆川の旧河道跡が描かれており、発掘前より遺構・遺物とも希薄な場所と予想されていた。

検出された遺構は、柱穴跡、溝跡、土壇、井戸跡が点在している。

(土壇016)

この土壇は平成10年度発掘調査時の弥生時代遺構群の範囲に位置するもので、低湿地のため、たいへん残存状況の悪い弥生土器を出土している。

(溝跡001)

近世遺物を出土する溝跡。東側を流れた旧逆川の堤防跡に並行して作られている。現況の幅2.2m、深さ0.7mの規模で堤防を築く土を掘削した跡とも考えられる。覆土は砂質の土砂でゆっくり堆積した状況である。

(井戸跡004)

直径1.3mの素掘りの井戸跡。青色粘土の覆土で途中で青色砂層の間層が入る。覆土内は近世～近代の遺物が混在する。台風による水没の影響もあり作業員による掘削では限界があり遺構の底部には到達していない。深さ2m程度掘り下げたが鉄棒によるボーリングでは更に3m以上の深さがあり合計で5m程度の深さが確認されている。

第6章 遺 物

第2次調査の出土遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、陶器破片、磁器破片がある。この地区は遺跡の外れでもあり第1次調査に比べて少なく、さらに遺物包含層の出土品もほとんどが破片であった。第6図-2は土壇016出土の高杯の脚部破片で底径11cm、現存高さ9.6cmを計る。水田耕作で土壇上部が削平されており、そのためか土器の坏部は失われている。弥生時代後期・菊川式土器である。第6図-1も同じく土壇016出土の甕型土器の口縁部の破片で、口径16.5cm、現存高さ16.2cmを計る。弥生時代後期・菊川式土器である。第6図-3は土壇015出土の土師器の高杯で口径13cm、底径10.5cm、器高8cmを計る。第6図-4も土壇015出土の土師器の甕型土器である。

第7章 まとめにかえて

祢宜弥遺跡の立地は、地形的には南下する原野谷川と西進する逆川の合流する場所にできた土砂の堆積による微高地上に位置している。この微高地は、上石野方面から流入した小笠山の土砂も形成の一因となっているように思われる。

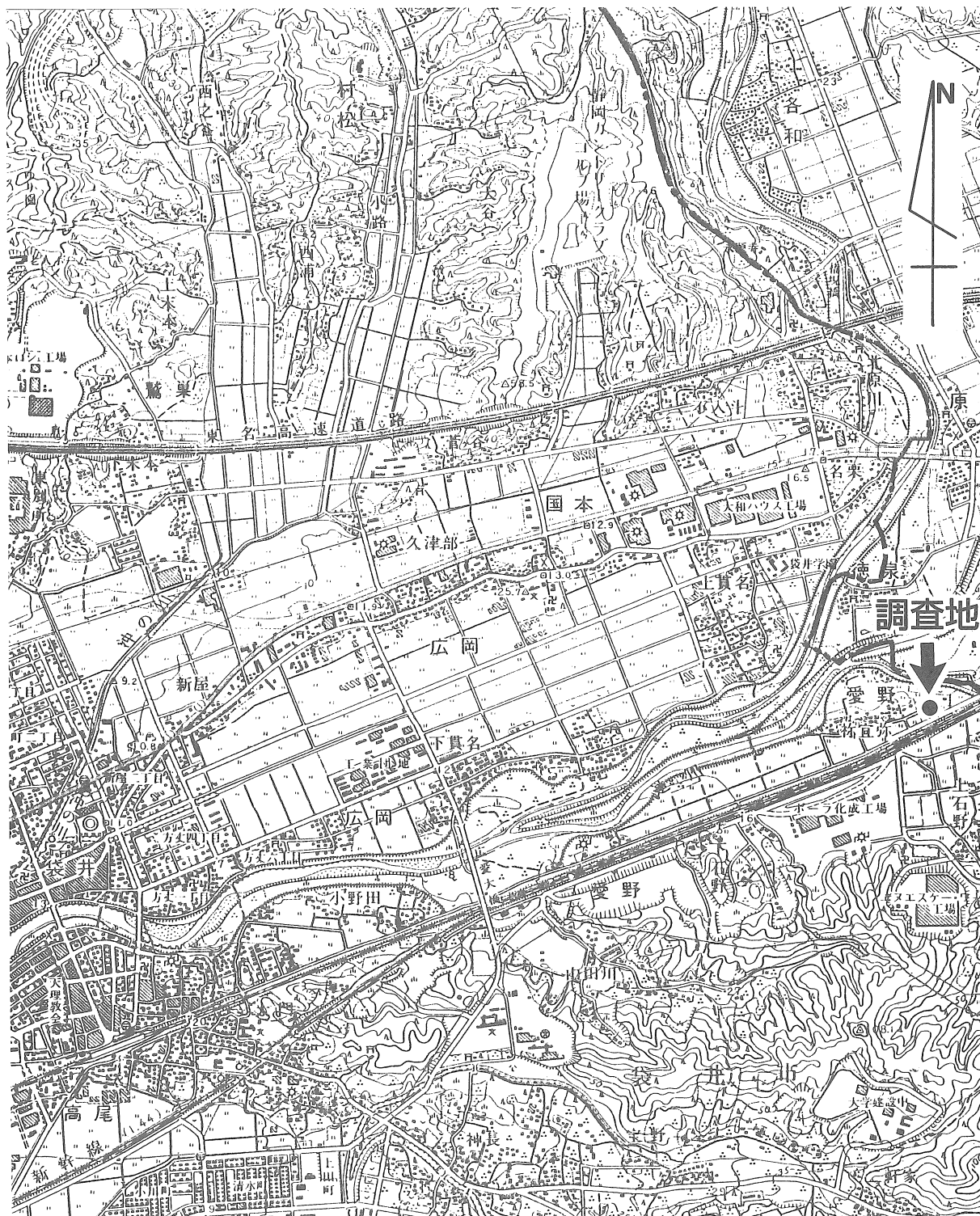
古代の祢宜弥遺跡の性格としては、河川に接する微高地上に営まれた弥生時代後期から古墳時代の小規模なムラで、水運による交易の中継地のような性格を持つとともに、水田での農耕も行われたと考えられる立地である。河川の後背湿地であった現在のポーラ化成工業株式会社の敷地周辺では、かつての土地改良事業で土器や木製品などの出土品があったようで水田跡の可能性も示している。そして、これらの遺跡の背後には、上石野に同時期に営まれた西野原遺跡のムラがあり、両者は密接な関係を持っていたものと推定できる。さらに南側の小笠山の山腹には、若作古墳群、石野古墳群、愛野向山古墳群などの墳墓群が散在しており、祢宜弥遺跡、西野原遺跡のようなムラ（集落遺跡）を取り囲むように立地する環境になっている。このように第1期の祢宜弥遺跡周辺は、生産（水田跡）—生活（集落跡）—埋葬（古墳）—交易（河川）が復元できる、古代社会の「箱庭」のようなエリアと考えることができるのかもしれない。

それ以降としては、奈良時代の布目瓦を出土したり、中世の山茶碗を出土する遺構も検出することから、引き続きこの場所で人々が生活していたことが伺われるが、今回の調査地が遺跡全体から見るとはずれで、さらに道路部分のみの狭い範囲の調査のため、これ以上の資料を収集することができなかった。遺跡の中心は逆川の北岸の掛川市域であることが古地図からも確認できているため、今後はそちらの資料の増加を待って改めて考察を行いたい。

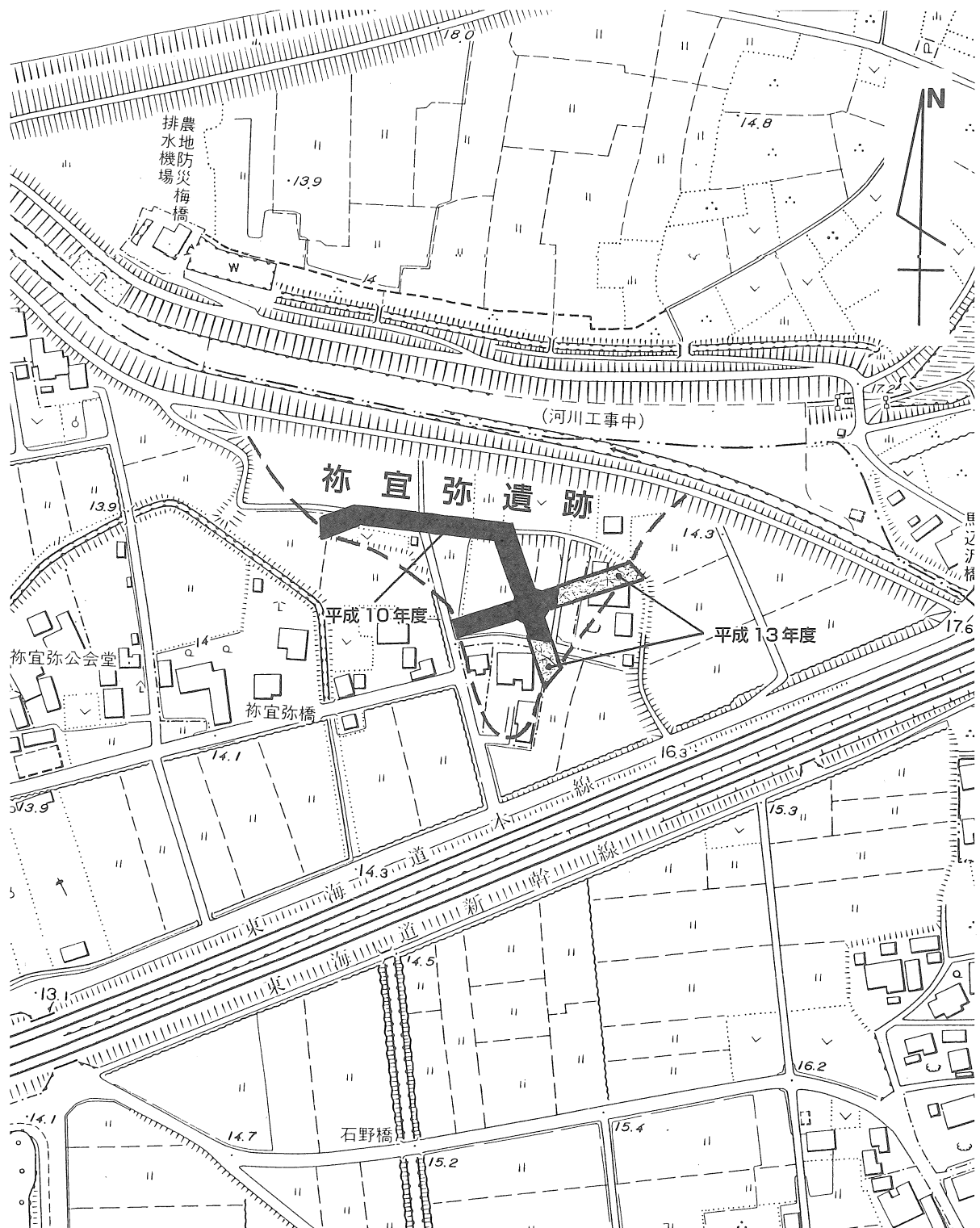
(参考文献・引用文献)

- 樋口清之 1930「静岡県小笠郡曾我村弥生式土器遺跡研究」『史前学雑誌』第2巻 史前学会
西郷藤八 1931「遠江考古資料四件」『考古学雑誌』第21巻 第5号
鈴木松太郎 1933『石野之栗』石野村之由来ほか
吉田富夫 1938「遠江国及び駿河国の弥生文化」『考古学』第9巻 第1号
加藤芳朗 1985「土橋遺跡をめぐる地形・地学的背景」『土橋遺跡』袋井市教育委員会
袋井市教育委員会 1987『愛野向山A-2・3・4号』
袋井市教育委員会 1988『愛野向山A-8号 愛野向山墳墓群 愛野向山、遺跡』
袋井市教育委員会 1990『若作遺跡 若作古墳群』
静岡県 1990『静岡県史 通史編1 原始・古代』
静岡県 1994『静岡県史 資料編1 考古1』
袋井高校郷土研究部 1997『石野の民俗』調査報告書
財静岡県埋蔵文化財調査研究所 1997『小笠山総合運動公園内遺跡群』
袋井市教育委員会 2001『祢宜弥遺跡I』

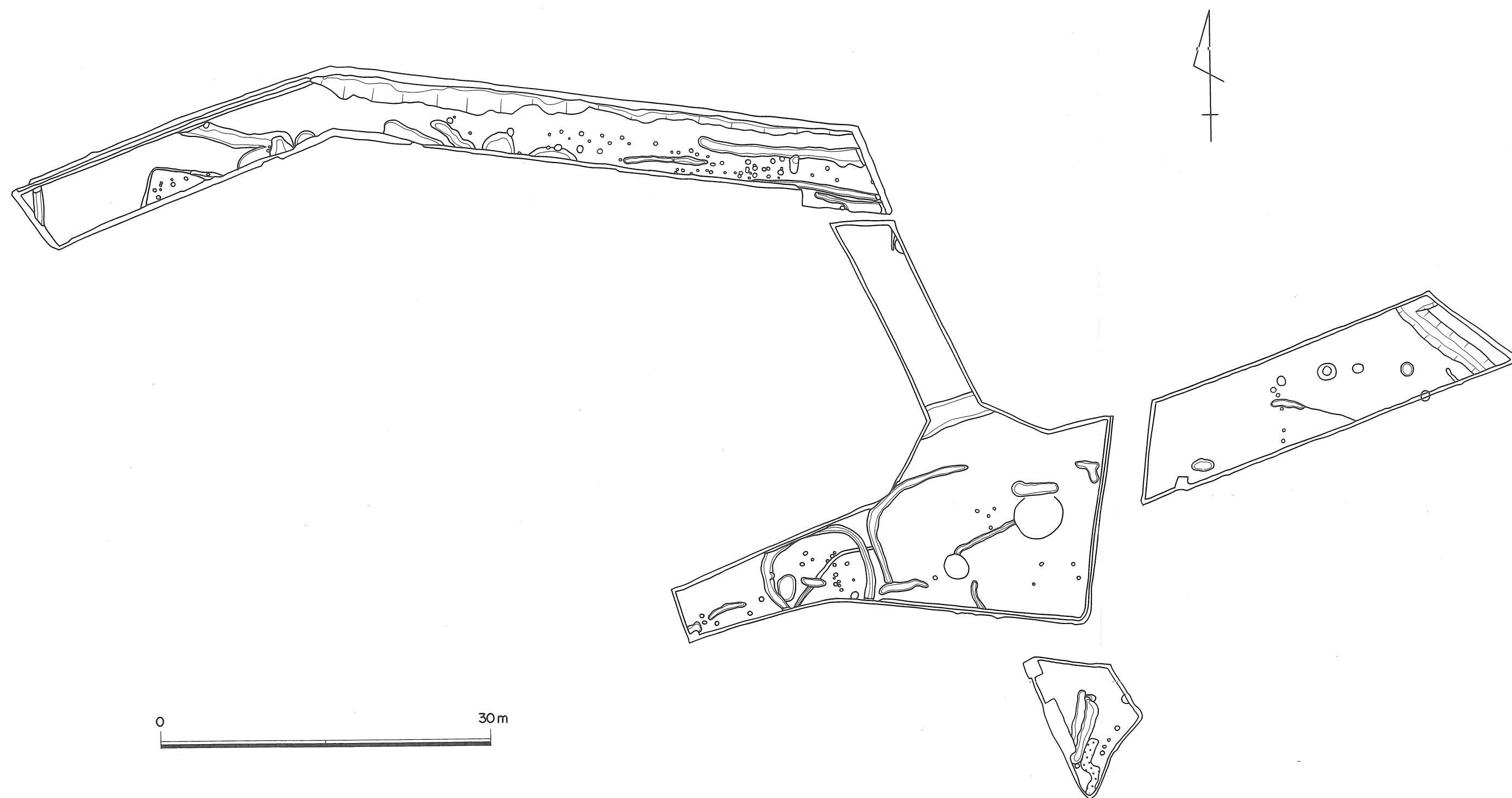
插图



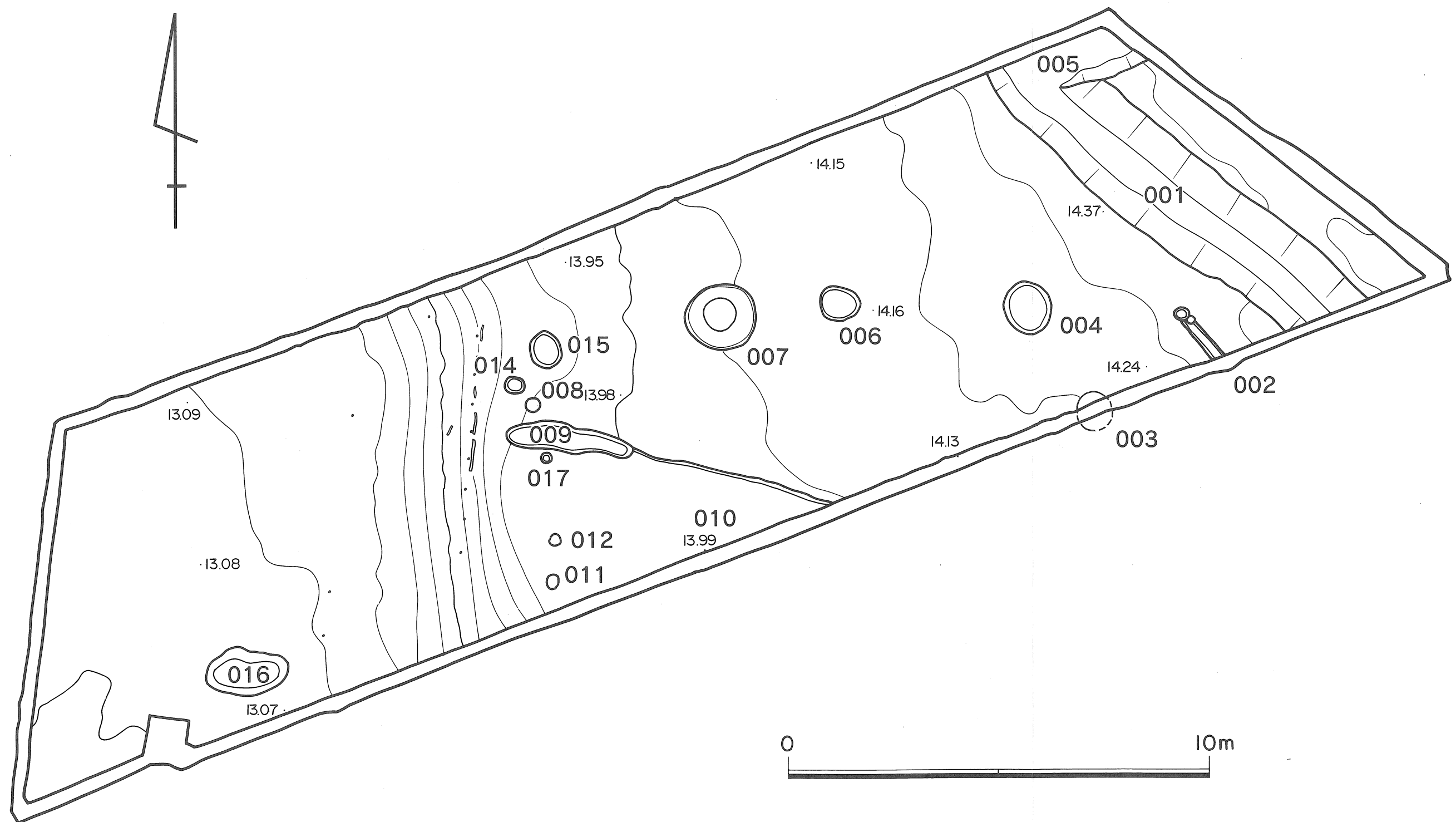
第1図 祢宜弥遺跡位置図 (1/50,000)



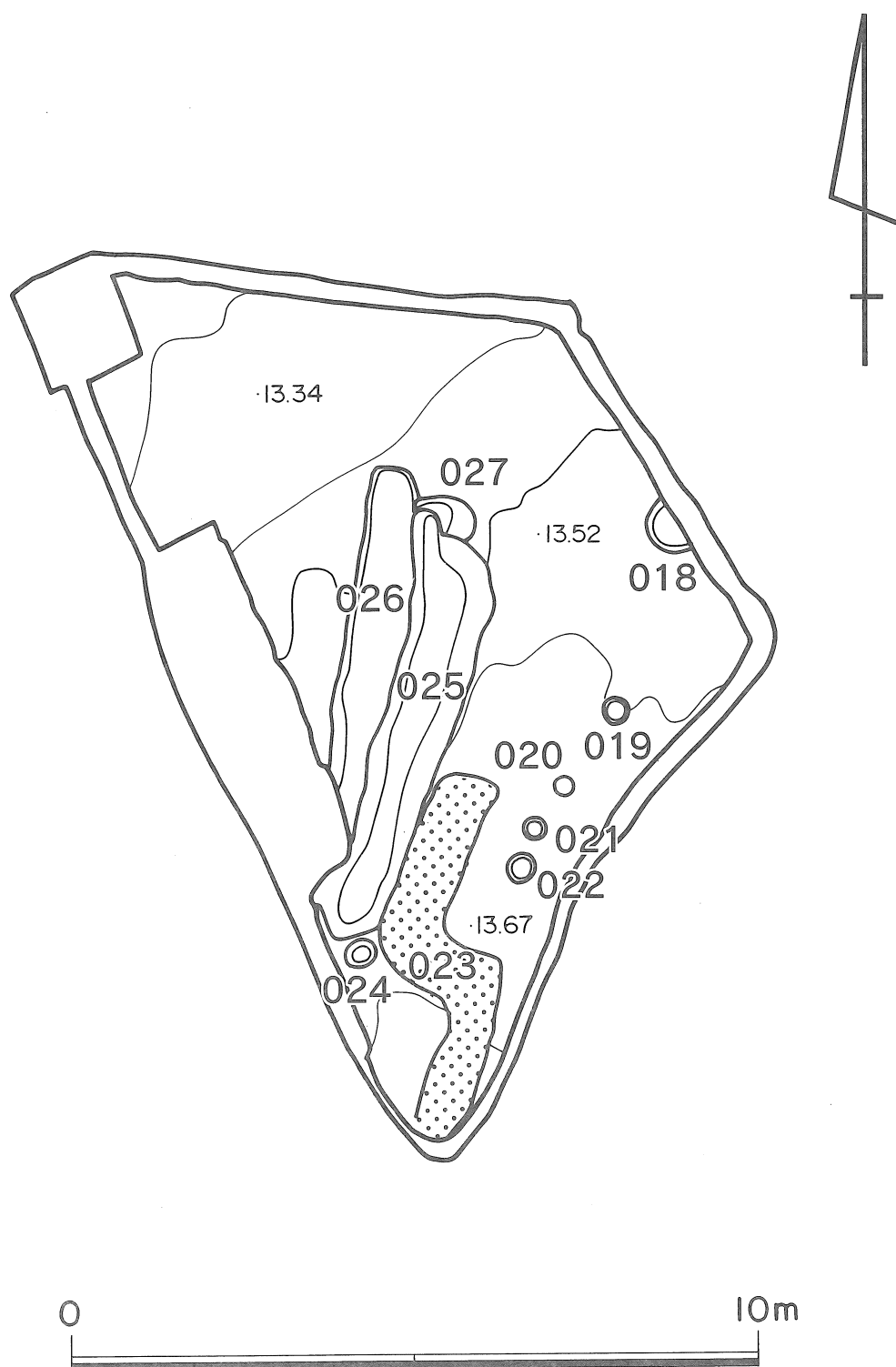
第2図 祢宜弥遺跡発掘調査地点 (1/2,500)



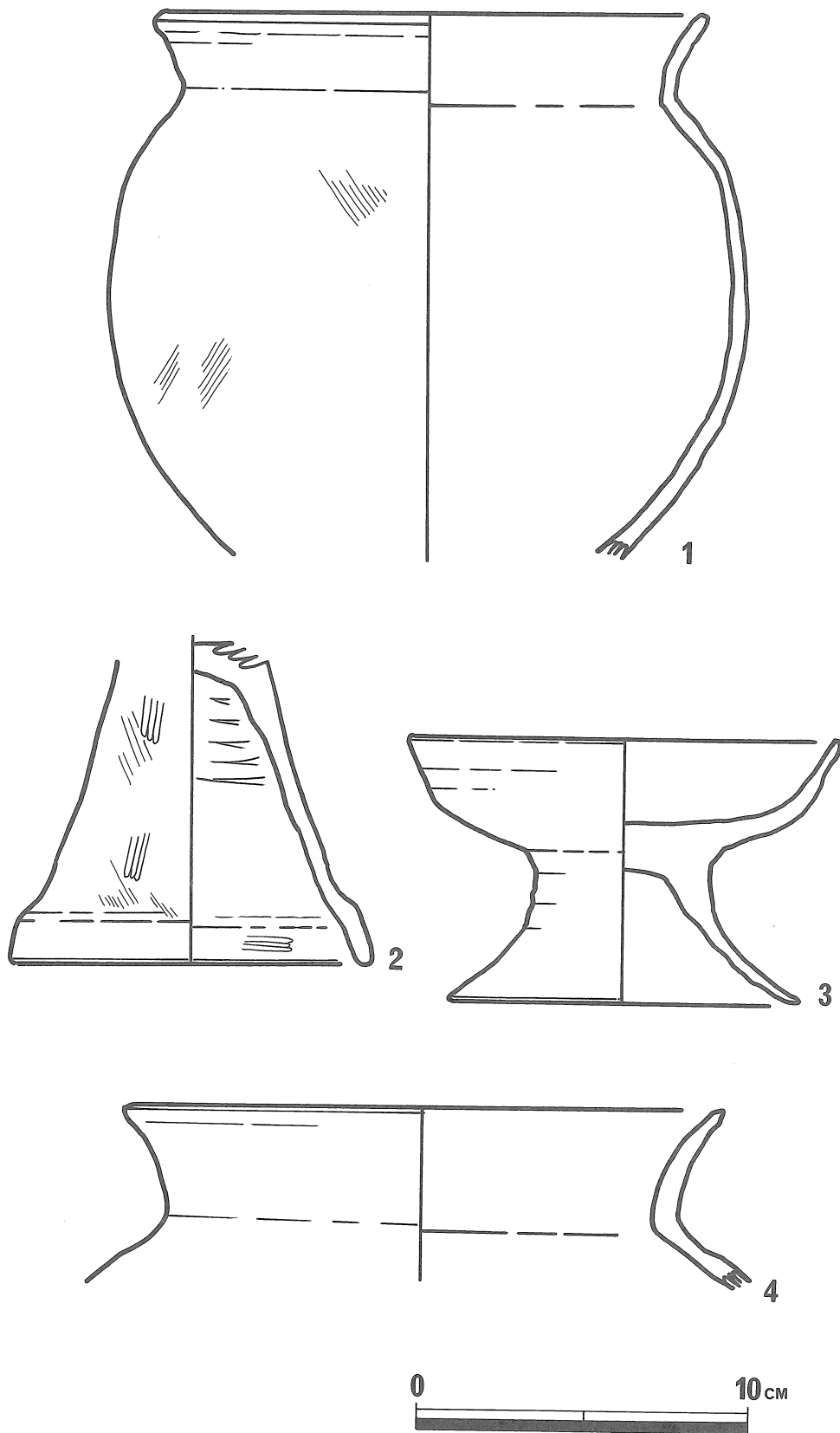
第3図 祢宜弥遺跡（第1次、第2次）発掘調査全体図



第4図 禰宜弥遺跡（第2次調査）南東区 実測図



第5図 祢宜弥遺跡（第2次調査）南南区 実測図

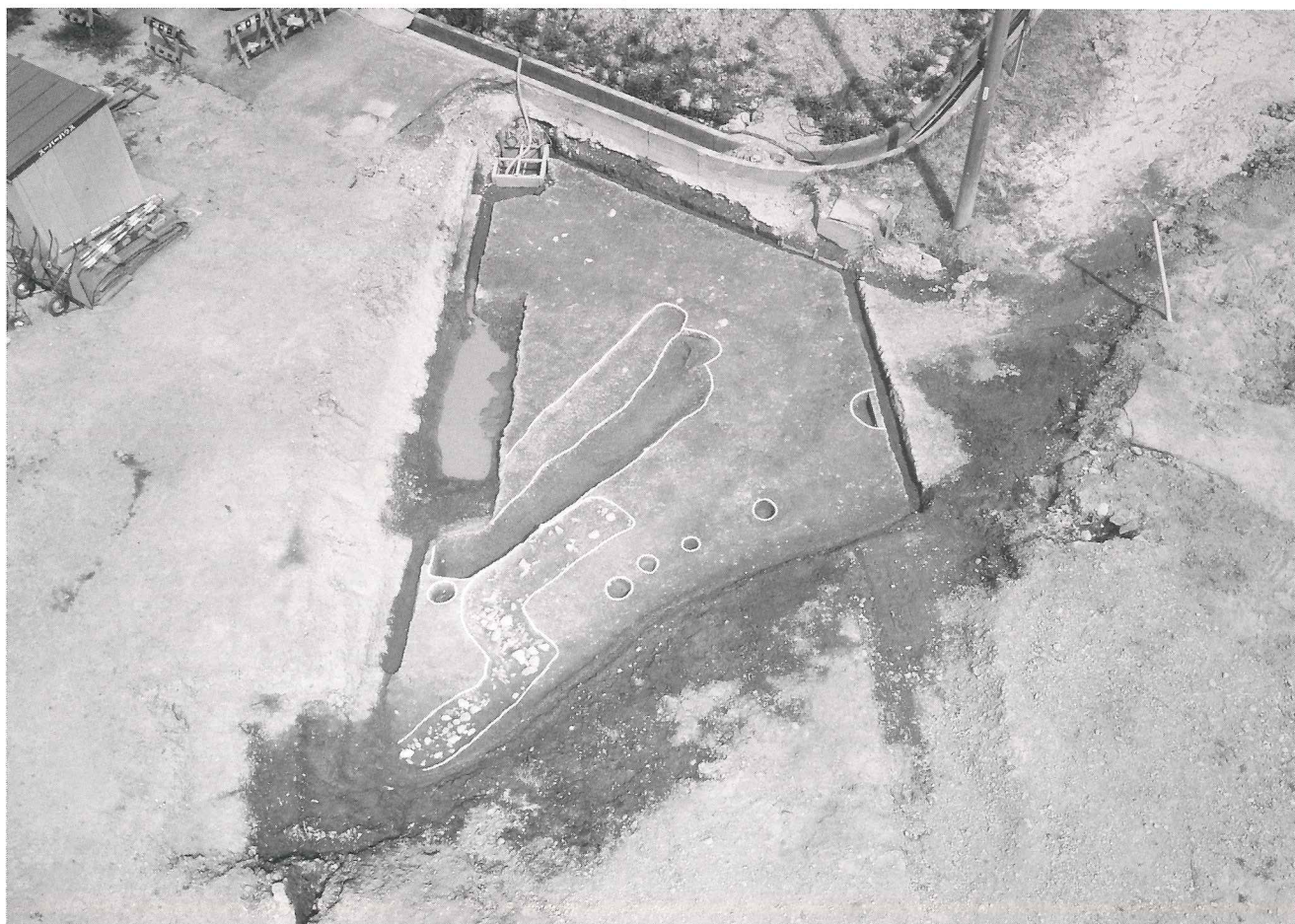


第 6 図 祢宜弥遺跡（第2次調査）出土遺物 実測図

写真図版



(1) 南東区完了写真 (ラジコンヘリより)



(2) 南南区完了写真 (ラジコンヘリより)



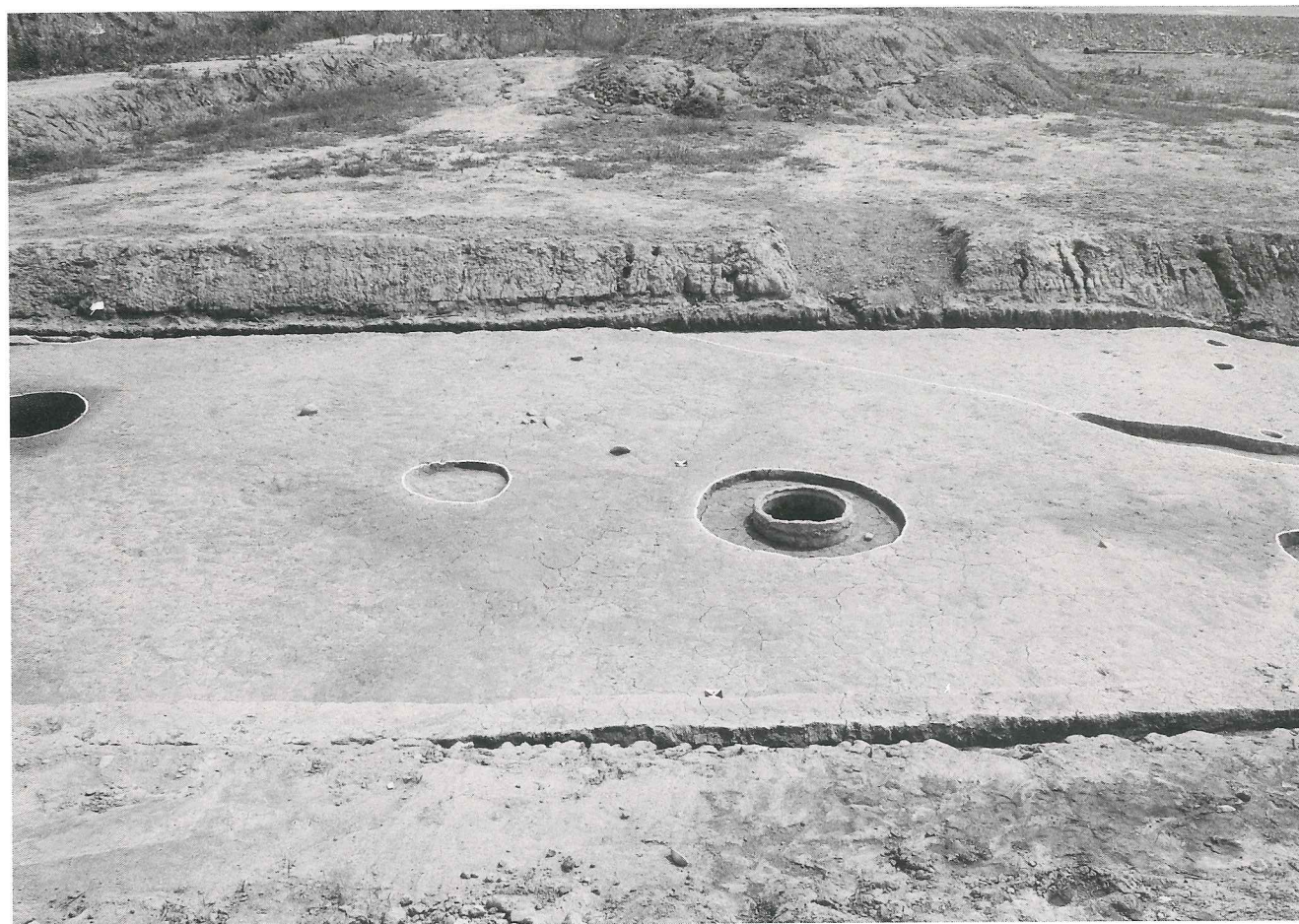
(1) 南南区調査状況 (北より)



(2) 南東区調査状況 (西より)



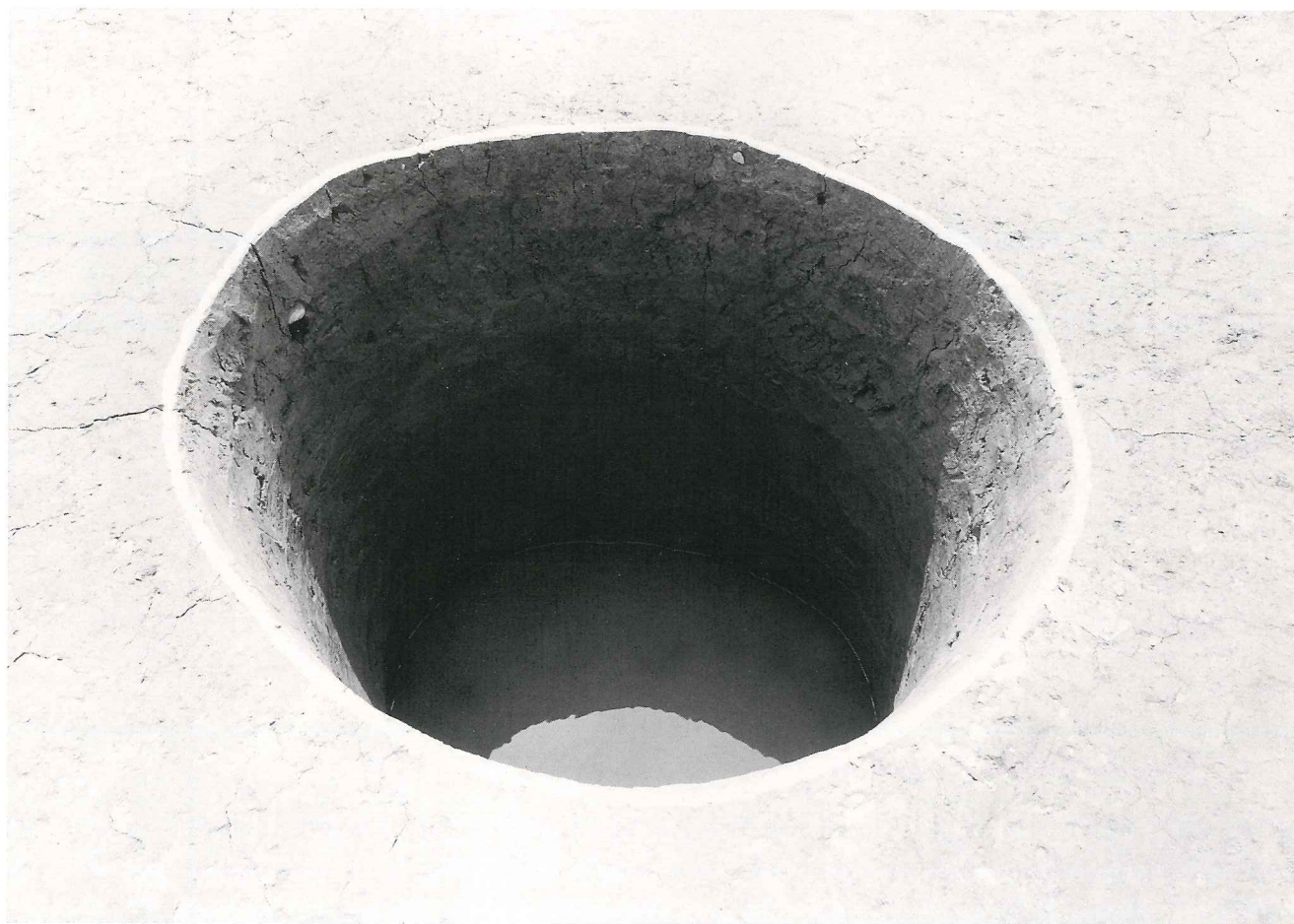
(1) 南南区調査状況（北より）



(2) 南東区井戸跡群完了写真



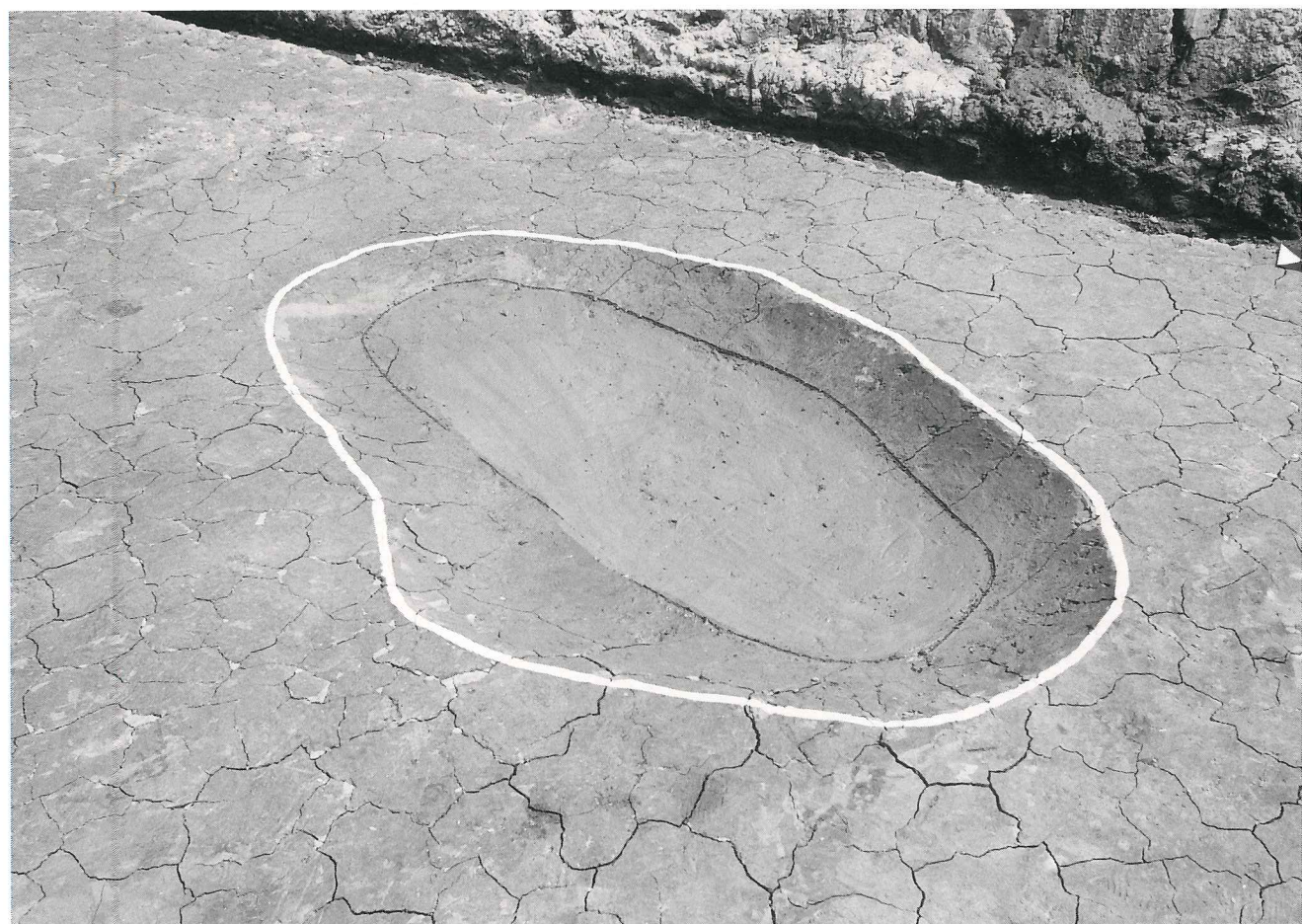
(1) 近世井戸跡 004 調査状況



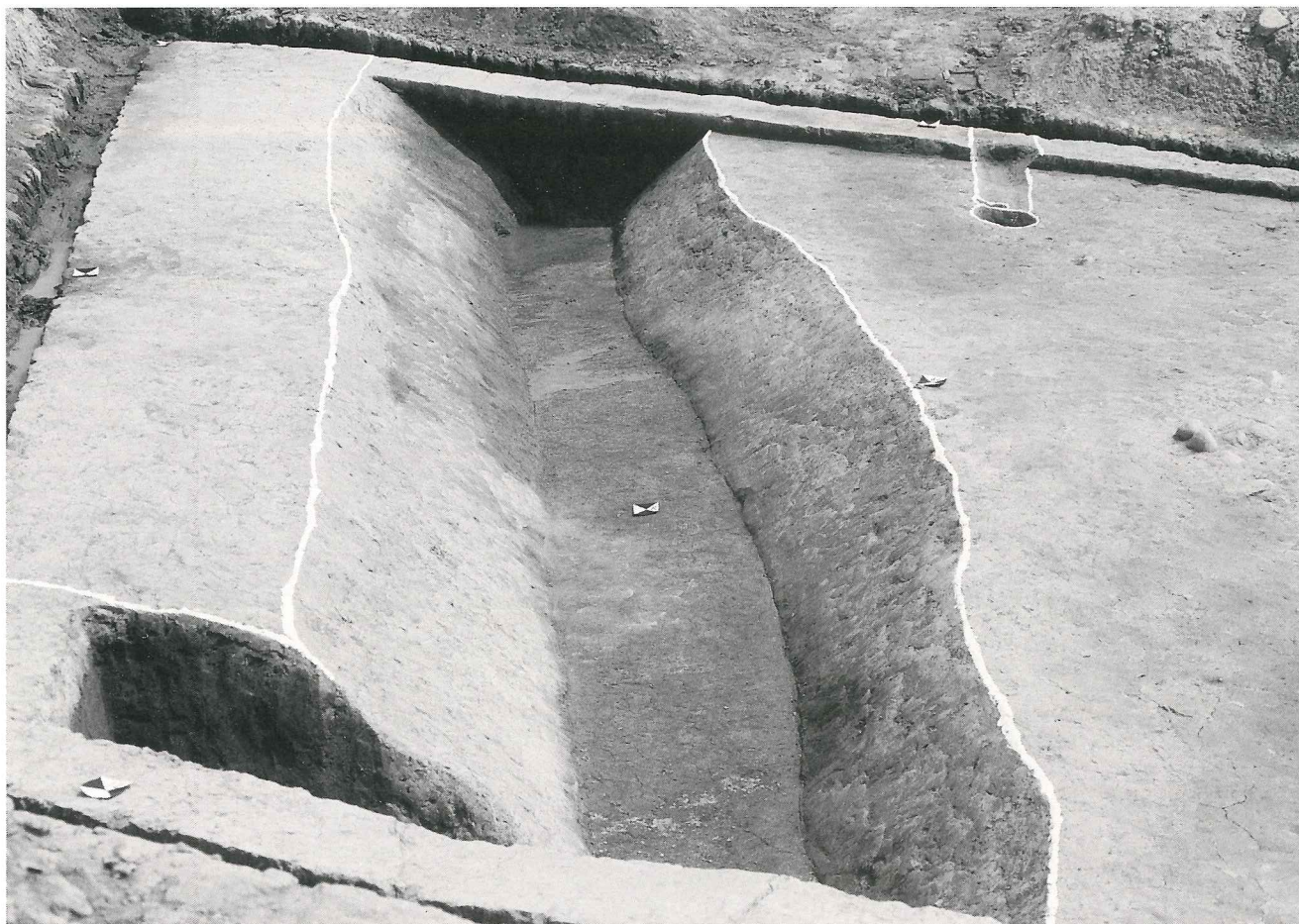
(2) 近世井戸跡 004 完了写真



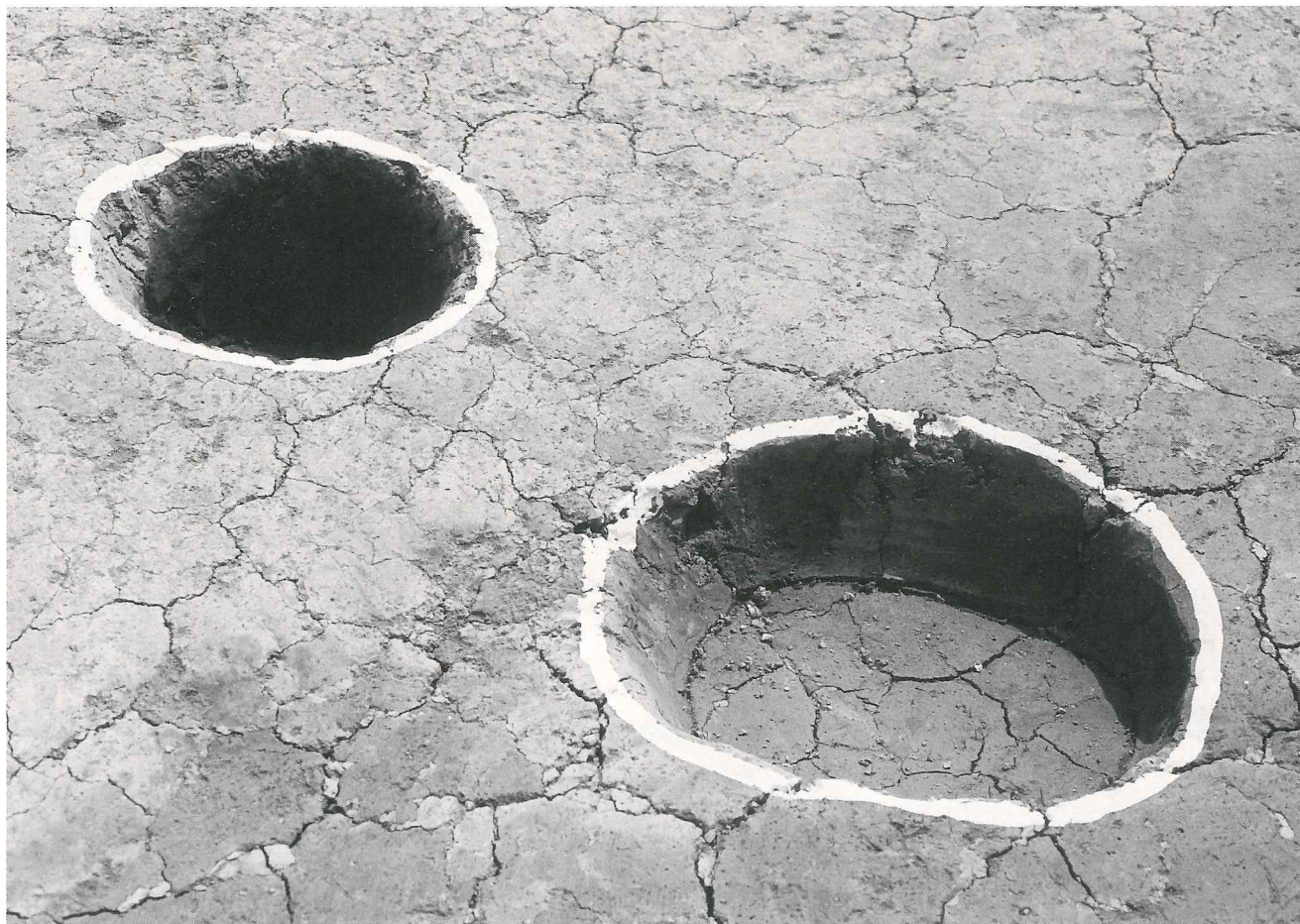
(1) 土壙 0 1 6 (弥生時代) 遺物出土状況



(2) 土壙 0 1 6 (弥生時代) 完了写真



(1) 溝跡 001, 002, 005 完了写真



(2) 柱穴跡 011, 012 完了写真



(1) 溝跡 009、柱穴跡 008 ほか 完了写真



(2) 近世井戸跡 003 完了写真



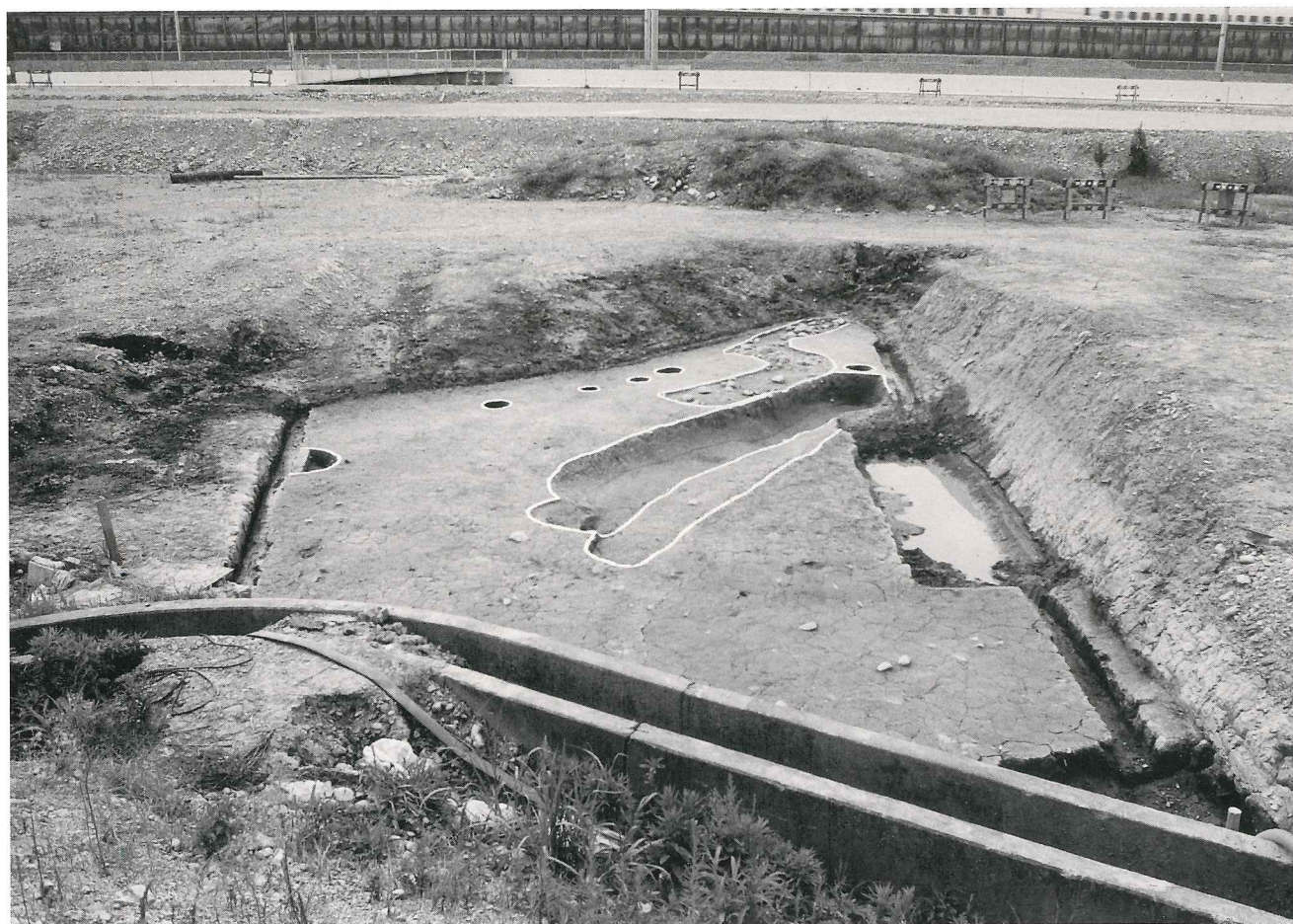
(1) 集石跡 023 完了写真



(2) 溝跡 025, 026 完了写真



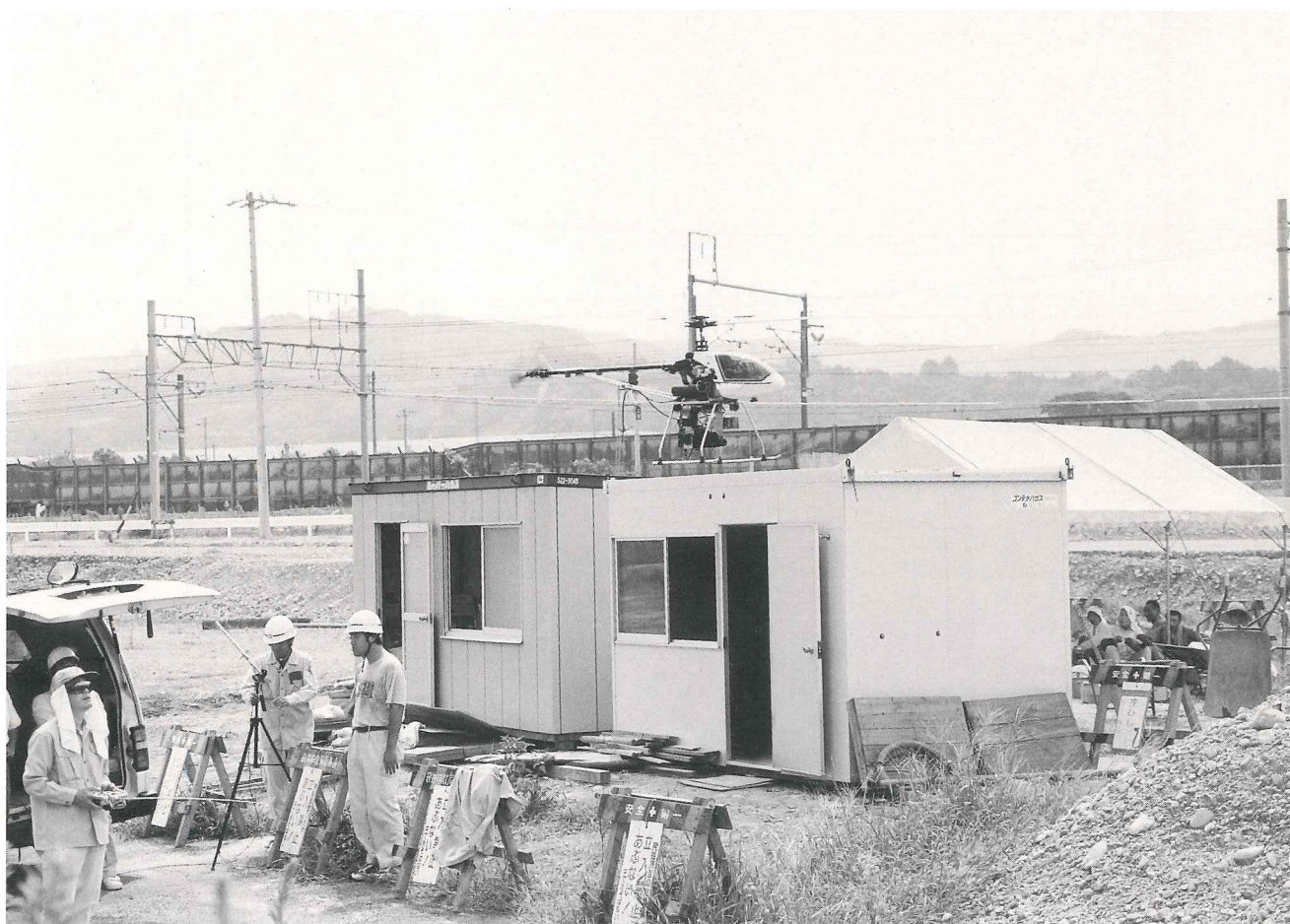
(1) 南東区完了写真 (西より)



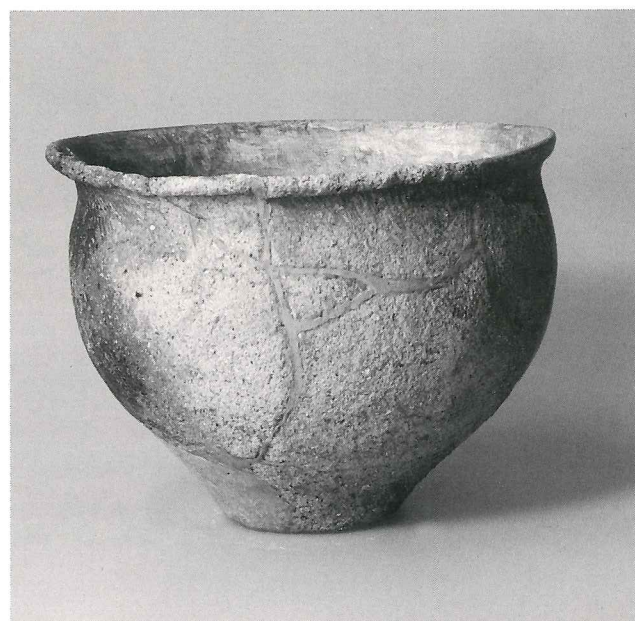
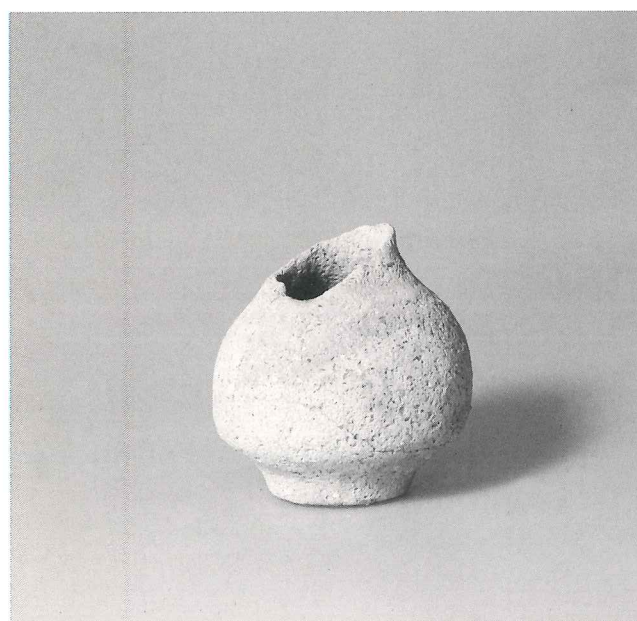
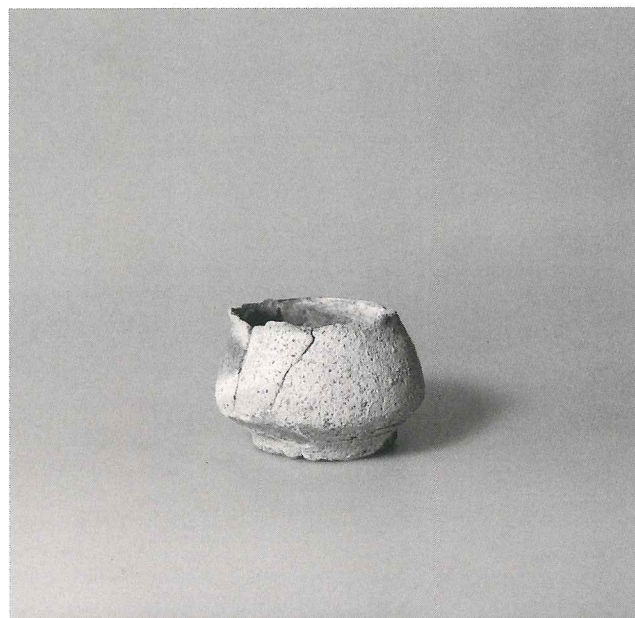
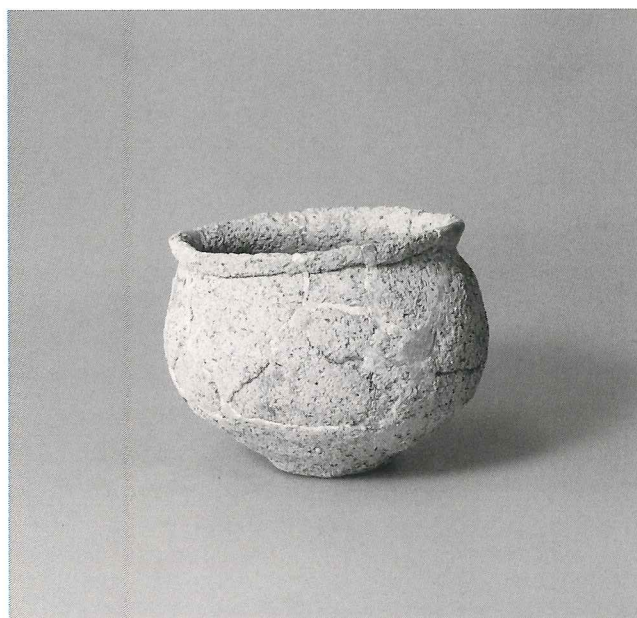
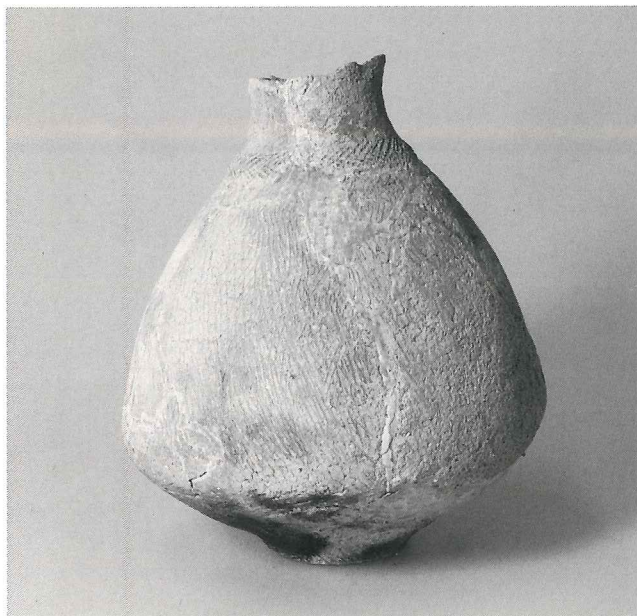
(2) 南南区完了写真 (北より)



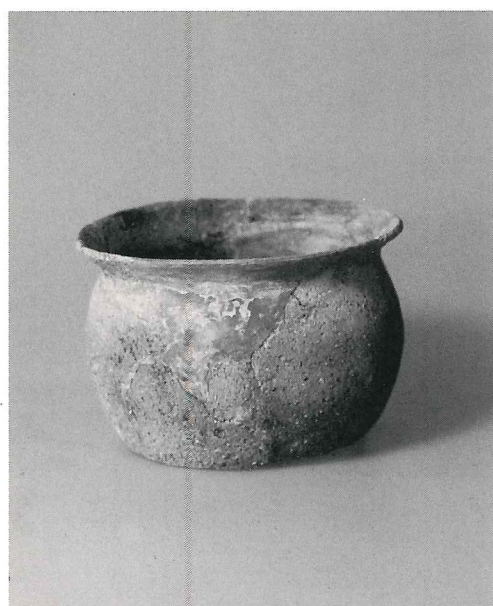
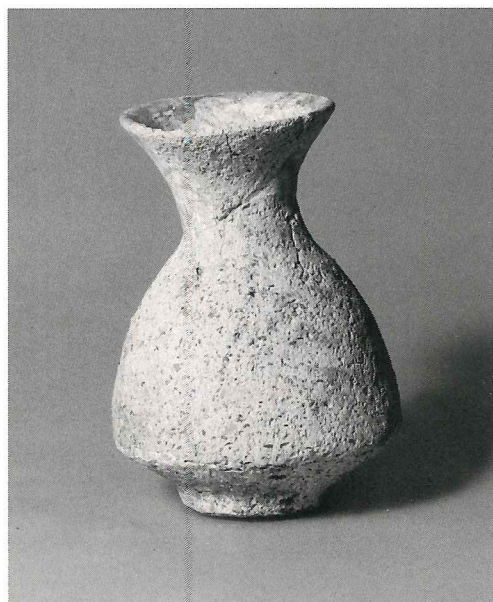
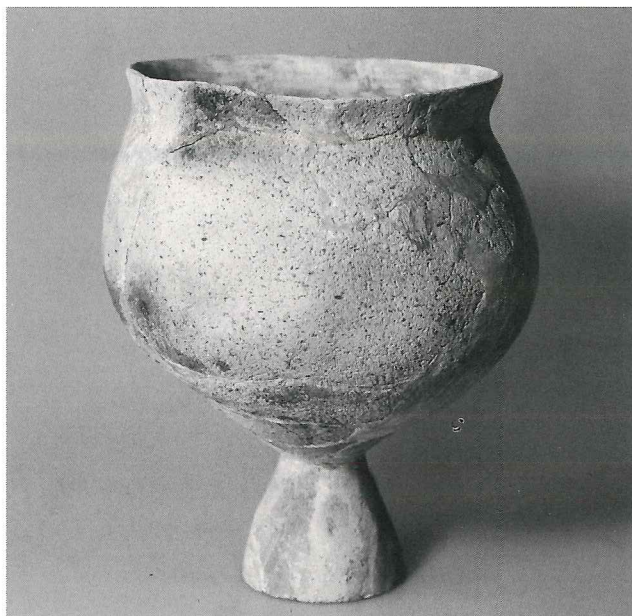
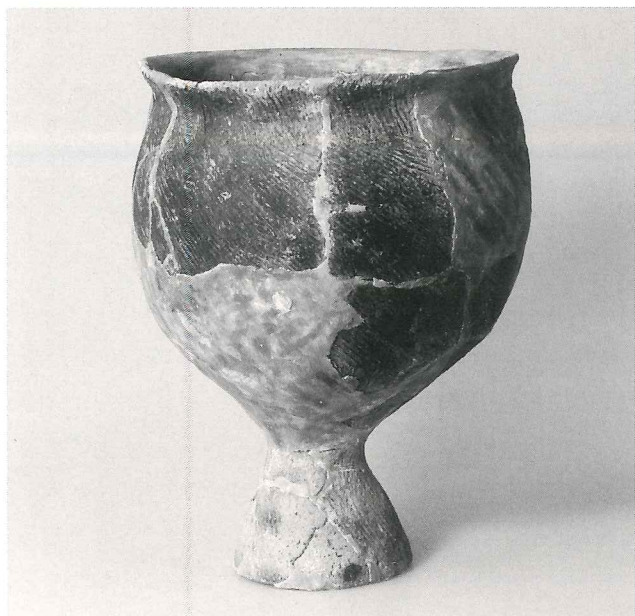
(1) 写真撮影のための遺構清掃作業



(2) ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影・測量



祢宜弥遺跡（第1次調査）出土遺物①



祢宜弥遺跡（第1次調査）出土遺物②

報 告 書 抄 録

ふ り が な		ね ぎ や い せ き						
書 名		祢 宜 弥 遺 跡 II						
副 書 名		平成13年度 袋井市祢宜弥土地区画整理事業に伴う遺跡発掘調査報告書						
編 集 者 名		永井義博						
編 集 機 関		袋井市教育委員会						
所 在 地		〒437-8666 静岡県袋井市新屋一丁目1番地の1 TEL 0538-44-3141						
発 行 年 月 日		2002年3月22日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コ ー ド		北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ねぎやいせき 祢宜弥遺跡	しずおかけん 静岡県 ふくろいし 袋井市 あいの 愛野	22216	新規	34° 45′ 01″	137° 57′ 56″	2 0 0 1 ↓ 2 0 0 2	402 m ²	袋井市祢 宜弥土地 区画整理 事業に伴 う道路築 造工事
所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構		主な遺物	特 記 事 項		
ねぎやいせき 祢宜弥遺跡	集落跡 散布地	弥生時代 古墳時代 中 世 近 世 近 代	柱穴跡、土壙 井戸跡、溝跡		弥生土器 土 師 器 須 恵 器	今回の調査地は遺跡 の東端を発掘してお り遺構・遺物は希薄 である。		

祢宜弥遺跡Ⅱ

(平成13年度袋井市祢宜弥土地区画)
(整理事業に伴う遺跡発掘調査報告書)

2002年3月

編集 静岡県袋井市新屋1-1-1
袋井市教育委員会

印刷 静岡県榛原郡吉田町片岡2210
松本印刷株式会社